

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：33905

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652078

研究課題名(和文) 1920～30年代の日本および東アジアのメディア言説における異常概念の解明

研究課題名(英文) The investigation of the concept of being abnormal of the media-expression in Japan and East Asia in 1920-1930s

研究代表者

小松 史生子 (KOMATSU, SYOKO)

金城学院大学・文学部・教授

研究者番号：60350948

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：1920～30年代の日本の言説状況において、<異常>という概念の知識が、好奇心と探求心をもって一般大衆に広まっていった経緯を、多様な一次資料の収集と復刻作業で確認することができた。論文の単行本化、通俗心理学雑誌の掘り起し、異常心理を扱った探偵小説同人誌の復刻などといった成果が得られた。また、学際的なシンポジウムも三回開催することができた。

研究成果の概要(英文)：In the statement situation of Japan of the 1920-30s, the knowledge of the concept of being abnormal was able to check the circumstances which had curiosity and an inquisitive mind and were circulated to the general public by collection and reproduction work of various original sources. Results, such as book-izing of a paper, digging up of a pop psych magazine, and reproduction treating abnormal mentality of a detective story coterie magazine, were obtained. Moreover, interdisciplinary symposium could also be held 3 times.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学

キーワード：比較文学 日本近代文学 大衆文化 探偵小説 心理学 精神医学

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本近代文学の分野において、1920～30年代のテキストに異常心理や変態心理を扱った言説が多用されていたことについては、文学研究者も以前から注目していたが、それを第一次資料に基づいて精神医学・心理学の分野の研究者と連携を持ちながら、徹底的に検証する作業はなされていなかった。これを受けて、文学・文化・心理学の3方面にわたる研究者を集め、学際的な共同研究を立ち上げた。

(2) 心理学の分野においては、ながらく心理学史が文献調査研究のなかで大きな位置を占めてきたが、ジャンルを横断する言説の行方を検討するテキスト分析の手法が近年注目されだしてきた。こうした状況下、若手か中堅の心理学研究者による明治～大正期の心理学雑誌に掲載論文のテキスト分析が開始され、やがて関心の幅は同時期の文学状況へ流れ込んでいる心理学言説にまで広がった。これを受けて、日本近代文学研究者と連携をもち、異常心理言説の共同作業を立ち上げることとなった。

(3) 社会学の分野においては、夙に都市衛生学の領域で精神病院のあり方や座敷牢の調査などで、異常心理に注目してきたが、そこに民間療法と宗教性という問題を絡めて立体的に庶民の感情生活を見つめようとする研究の動向が見受けられた。これを受けて、臨床医学から文献心理学の研究者とも連携を持ち、ひいては日本近代文化の一樣相として他分野研究者と共同作業を立ち上げることとなった。

### 2. 研究の目的

(1) 常識や価値観の再設定の状況が盛んになった1920～30年代を、異常/正常を語る言説コードの変遷期として新しくとらえなおす。

(2) 分野別・領域別の指揮を超え、また文科系・理科学系の枠をも超え、超域的な学際研究の場において討論することを可能とする、確固とした革新的な理論モデルと資料を提出する。

### 3. 研究の方法

(1) 近代日本の医学言説、性言説、犯罪言説の一次資料の調査と分析を行う。

「婦人公論」、「貴女之友」などの女性雑誌系、「新青年」、「犯罪実話」など探偵小説・犯罪実話の掲載誌系、「人性」、「変態心理」、「変態資料」などの通俗心理雑誌系などにカテゴライズできる領域の一次資料を収集し調査する。

「性暴力問題資料集成」、「売春問題資料集成」などを参考に、性言説の政治的統制につ

いて一次資料を収集し調査する。

(2) 東アジア諸地域の言説調査  
日本植民地支配下における韓国、台湾の1920～30年代の性言説の位相を、新聞、雑誌、映画などのメディア分析を通して調査する。

(3) 学際シンポジウムと公開研究会の開催と研究書の刊行

心理学分野および精神医学分野の研究者を招き、学際的討論を行う場を用意する。

研究分担者の本研究にかかわる論文の刊行を目指す。

### 4. 研究成果

(1) 若手から中堅の研究者が本研究の扱う問題に注目し、日本近代文学の研究領域で異常心理をめぐる論考や発表が相次ぐ事態となった。

本研究の研究分担者および研究協力者が刊行した研究書、復刻の例には、下記のようなものが挙げられる。

生方智子『精神分析以前 無意識の日本近代文学』(翰林書房、2009年12月)。

本書は、フロイトの精神分析が日本に輸入される以前、明治期文学にすでに精神分析の流れに直結するかのような言説動向が見出されることを、具体的な文学作品の丁寧な読み込みを通して論述していった研究書である。本研究の前史的位置にあたる研究書といえる。

竹内瑞穂『「変態」という文化』(ひつじ書房、2014年3月)。

名古屋大学大学院に提出した博士論文を修正加筆して刊行した研究書である。主に、1920年代に刊行されていた雑誌「変態心理」の誌面の分析を行いながら、同時期の様々なメディアに波及している

「変態」なるコードを追い、共同体・商品・アイデンティティという昭和モダニズムのキーワードと「変態」コードが絡む領域をあぶりだしていった。

一柳廣孝『無意識という物語 近代日本と「心」の行方』(名古屋大学出版会、2014年5月)。

本書は、十年以上にわたって近代科学とオカルト言説の交錯を調査してきた中堅研究者・一柳廣孝が、その調査の集大成として刊行した研究書である。本研究の研究分担者としての大きな成果に数えられる。

また、小松史生子による関西探偵小説専門同人誌「獵奇」(三人社、2013年10月)の復刻は、1920年代末期から1930年代前半にかけて、関西方面の探偵小説文壇が東京文壇に劣らず活動してきたにもかかわらず、その詳細は長いこと不問にされてきた事態を見直す基礎資料の提示として、本研究の方針に沿うものである。

(2) 今まで日本近代文学の学際的に大きいプロジェクトは東京を中心に開催されてきた感が強いが、本研究が開催した研究例会およびシンポジウム等は、中部を軸足に西日本にも派生して空間的広がりをもった。

たとえば、毎回の研究例会は、名古屋市金城学院大学、名古屋大学、愛知淑徳大学を会場として行われた。このことによって、中部圏の学生や院生も自由に参加できる体裁を宣伝し、中部圏における若手研究者育成の場としても機能した。

それと同時に、中部から西日本の研究者たちの連携も深まり、この地域に散逸する第一次資料の掘り起しに必要な協力体制を形成することに貢献した。この点での大きな成果は、小松史生子編『東海の異才・奇人列伝』(風媒社、2013年4月)である。本書は東海圏にゆかりのある異才・奇人と称される人々の即席や業績を調査し、中部文化圏の特色を人材をもって見直そうとした著作である。各項目執筆には、本研究の研究分担者および研究協力者のほとんどが参加し、本書は東海地方において数々のメディアに取り上げられるなど、大きな注目を浴びた。

さらに、研究分担者および研究協力者の中には、熊本や大分にまで実地調査に向かい、その地の貴重な一次資料を発掘した者もいる。また、台湾在住の研究協力者による、台湾における変態心理言説調査も行われ、台湾に残されている多くの文献から、1920年代に日本で刊行された変態心理研究本が台湾へ輸出されていること、さらに翻訳書も刊行されていることをつきとめた。今後、こうした九州地区や台湾での調査の成果も、順次刊行されていくことになる。

(3) 心理学研究分野においては、日本心理学の黎明期に大きな業績を残した元良勇次郎の著作集が2013年にクレス出版から刊行されたことも、本研究にかかわる一つの画期的な成果である。この全6巻+別館1の著作集の編集・監修には、本研究の研究分担者である小泉晋一、研究協力者である安斎順子が参加した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計 16 件)

山口俊雄、石川淳『処女懐胎』論 奇跡とその引き受け、「民主化」とその引き受け、日本女子大学紀要文学部、査読無、63巻、2014、27-55

一柳廣孝、「学校の怪談」の近代と現代、文藝論叢、査読無、82巻、2014、81-98

古川裕佳、挑発する遺書～「或旧友へ送る手紙」「邦子」「ある自殺者の手記」～、都留文科大学国文学論考、査読無、50巻、2014、39-52

坪井秀人、<遠さ>あるいはアウラの向こう側へ 前期『月に吠える』の詩の風景、比較文学研究、査読無、98巻、2013、17-34

山口俊雄、石川淳『至福千年』論 <憑依>の論理学・<憑依>の政治学、日本女子大学紀要文学部、査読無、62号、2013、21-49

一柳廣孝、「精神分析」という物語 近代日本における文学場との関係を中心に、文学、査読無、13巻6号、2012、59-70

小松史生子、都市を駆ける人獣～『怪物』『悪魔の舌』、そして『人間豹』への系譜～、金城学院大学論集、査読無、9巻1号、2012、180-194

一柳廣孝、明治の熊本と催眠術、熊々論々、査読無、1巻、2011、42-49

古川裕佳、志賀直哉「憶ひ出した事」 相馬事件の<記憶>と思い出されなかったこと、文科の継承と展開、査読無、1巻、2011、285-306

光石亜由美、大正期の<精神病院>文学、文学批評叙説、査読無、3巻7号、2011、13-29

#### [学会発表](計 6 件)

小松史生子、人獣の近代～都市を駆ける獣～、比較文学会中部支部大会、2013年11月20日、名古屋大学

小泉晋一、福来友吉の催眠研究と催眠療法、日本催眠医学心理学会第59回大会、2013年9月16日

一柳廣孝、催眠術と霊術のあいだ 明治から大正へ、日本催眠医学心理学会第59回大会、2013年9月16日、高知市民文化会館

小松史生子、人獣の系譜～近代と前近代の連続と差異～、怪異怪談研究会、2013年8月7日、明治大学

一柳廣孝、怪異を再編する 明治後期の文壇における怪談ブームをめぐる、日本近代文学会関西支部、2012年6月9日、大阪樟蔭女子大学

#### [図書](計 6 件)

小泉晋一、クレス出版、元良勇次郎著作集第5巻、2013、473

一柳廣孝、東京堂出版、日本怪異妖怪大事典、2013、237-239

小松史生子、北海道文学事典、2013、129-136

小松史生子、風媒社、東海の異才・奇人列伝、2013、252

小松史生子、三人社、復刻「獵奇」、2013、2、430

坪井秀人、名古屋大学出版会、性が語る 二世紀日本文学の性と身体、2012、682

#### [産業財産権]

出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

小松 史生子 (KOMATSU, Syoko)  
金城学院大学・文学部・教授  
研究者番号：60350948

##### (2) 研究分担者

坪井 秀人 (TSUBOI, Hideto)  
名古屋大学・文学研究科・教授  
研究者番号：90197757

古川裕佳 (HURUKAWA, Yuka)  
都留文科大学・文学部・准教授  
研究者番号：80405076

山口俊雄 (YAMAGUCHI, Toshio)  
日本女子大学・文学部・教授  
研究者番号：80315861

一柳廣孝 (ICHIYANAGI, Hirotaka)  
横浜国立大学・教育人間学部・教授  
研究者番号：40247739

小泉晋一 (KOIZUMI, Shinichi)  
共栄大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80296376

光石亜由美 (MITSUISHI, Ayumi)  
奈良大学・文学部・准教授  
研究者番号：90387887

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：